

令和5年度長野県長野吉田高等学校学校評価表

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育活動	生徒指導	生徒の自立心と社会規範意識を高めさせる生活指導を行う。	身なりや挨拶、登下校時のマナーを含め公共の場における適切な態度を身につけさせることができたか。	生活けじめ週間を4回実施。自転車通行マナーについて、ホームルームにて注意喚起を実施。中央署員より1学年向けに交通安全講話を実施。自主的に立ち番をしてくださった先生方のおかげもあり、遅刻者数は減ってきている。		○		引き続き注意指導していきたい。また、声を出して挨拶ができるように指導する必要がある。
			集団生活の中で、他者を思いやり、自ら考えて行動する態度を育てることができたか。	学校生活アンケートを2回実施。きまりを守る意識やマナー・モラルについて職員全体での継続的な声かけが必要である。		○		生徒について職員間での共有を継続していく。あらゆる場面で主体性や人間性の部分を指摘していく。
	進路指導	生徒が自主的に目標をもって学び、意欲的に進路実現を目指す学習・進路指導を行う。また、将来の生き方・働き方を考え、選択決定する上で必要な、基本的な能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。	進路指導係として、本校生徒全体の学力向上を目指し、生徒自身が具体的な学習目標をもつことができるような教科指導・進路指導を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会4月（1学年（対面）・2学年（オンライン）・3学年（対面）） ・学年集会、学年進路講演会の実施、学年通信の発行 ・進路指導室だより（1, 2年向け：月刊、3年向け：適時）の発行 ・次年度類型科目選択資料「科目選択の指針」の作成 	○			引きつづき、状況によってはオンラインなどを活用し、各取り組みの充実を図る。特に2025年度入試に向け、最新の情報の収集に努め、随時提供していく。
			進路指導係として、夏期講習・学習合宿・補習・個別指導・小論文指導等を充実させ、生徒個々の希望や実情に応じた進路指導を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年1学期・2学期：放課後補習の実施 ・1学年夏期休業：学習合宿、2学年夏期休業：夏期集中講座 ・3学年夏期休業：学習合宿、夏期補習 ・1, 2学年：小論文講座の実施 ・3学年：特別編成授業A・B計画と実施、小論文模試、小論文講演会の実施 		○		夏期休業中の補習、また学習合宿に代わる学力補充の実施について、時期や形態を再考する。引き続き、模擬試験欠欠者の自宅受験は行わないことを申し送り事項とする。
			進路指導係として、生徒が自発的に家庭学習時間を増やすよう、学校全体で取り組めたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2学年：タブレット端末やリブリの活用の推奨 ・スタディーサポートや生活記録などを通じた実態の把握 ・状況を踏まえた個別面談の実施 		○		学習とスマートフォンとの共存、また班活動との両立が大きな課題である。また、日々の教科指導における予復習の徹底が課題である。
			進路指導係として高大接続改革をふまえ、共通テスト・探究学習や新学習指導要領への対応を、関係部署と連携しながら進めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年進路講話の実施 ・進路指導係会内での新課程入試に向けての情報共有、指導計画検討 		○		2025年度（新課程）入試の研究と理解を深め、指導計画に組み入れる。探究活動の充実と、副担任による模試監督など職務分担の平分化を含め、他分掌や教科にも発信していく。
			進路指導係として、就労体験等の機会の活用を図りながら、望ましい勤労観、職業観を育成できたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田小学校（11月）にて教育実習体験実施 ・1学年11月：大学等見学（企業見学は一部実施） ・1学年12月：キャリアガイダンス実施（オンラインと対面で実施） ・2学年12月：大学模擬授業（オンラインと対面で実施） ・1, 2学年：「高校生看護師体験」（希望者） 	○			引き続きオンラインによる実施を視野に入れながら、充実を図る。また、探究学習や活動履歴との接続を検討する。
	生徒会	生徒の主体的行動を促し、一人ひとりが責任感を持って意欲的に自治活動に取り組み、各々が成就感を持つよう支援する。	日常の委員会活動や諸行事の運営の中で、生徒会役員がそれぞれの場でリーダーシップを発揮し、全校生徒が主体的に参加できるような創意ある活動をおこなうための支援ができたか。	本年度計画した生徒会行事は全て対面で実施することができた。7月に開催した暁峰祭では、感染症対策を講じた上で、一般公開を実施することができ、生徒会役員を中心に大きな達成感を得ていた。本年度初めて近隣の高校と合同企画を行ったが、活動を総括し、改善点を洗い出すとともに、他校の活動の様子を見聞する機会を積極的に利用したい。	○			3校合同企画などの他校との取り組みを今後も行い、外部への発信、地域との関わりを持った取り組みを生徒会役員と活発な意見交換を行いながら、取り組んでいきたい。
			クラブ活動への加入、活動の活性化を促進し、クラブ活動がより一層充実するよう支援することができたか。	当初の計画通り、体験入学・クラブ結成会を行うことができた。クラブ加入状況は例年通り。運動部、文化部ともに活発に活動しており、県大会や上位大会にも多数出場できている。	○			引き続きクラブ活動が活性化できるように支援をしていきたい。
	平和人権教育	平和人権教育を計画的に推進し、職員研修を実施する。	全校生徒を対象に、人権・平和に関する講演・朗読会または映画鑑賞を実施し、事前事後学習と関連させてHR等での学習を深めることができたか。	全校一斉平和・人権学習として、二年生の修学旅行先でもある長崎の原爆症の現在について「林京子と青来侑一の前爆小説」についてのプリントを事前に配布し、10月4日（水）に映画『爆心一長崎の空』を視聴した後、LHRの時間をもって感想文を書いた。HDMIエクステンダー受信機を設置し、各教室に同時配信する形式を採用した。	○			本部教室(418)よりDVDを再生し、各教室に配信する新しい形態で映画鑑賞を行ったが、音声・映像とも高品質で視聴できた。毎年午後実施していた企画であるが、機材の設置等の関係で午前中開催とした。時間に関してはフレキシブルに対応できてよかった。
			平和人権学習の時間をHR等で計画的に確保できたか。	今年度のテーマである「原爆症の現在」に関するプリント資料およびパンフレットを作成し、映画鑑賞の前と鑑賞後の生徒の感想をまとめてHRの時間に配布しフィードバックを行った。	○			さらに事前学習の中身の充実を図りたい。
			平和人権教育に関する教職員の研修を実施し、校内での実践等を交流できたか。	全校生徒対象の学習会と職員研修を昨年続き共催という形で実施した。職員は会議室にて、同時配信された映画『爆心一長崎の空』を視聴した。	○			交流する時間を検討したい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育活動	施設整美防災	校内美化に対する意識の向上および清掃活動の徹底と防災意識の涵養に取り組む。	生徒会整美委員会が中心となり、日々の清掃活動の励行、ゴミの取り扱いに対する意識を高める等、生徒と職員が一体となって、日常的に取り組むことができたか。	クラスの委員を中心に、清掃を積極的に取り組むことができた。ゴミステーションの当番を各委員に順番に割り振ることにより、ゴミに対する意識を高めることができた。教室のゴミ箱を設置した。晝峰祭で出たごみの量は例年に比べかなり少なかった。	○			ゴミに対する意識を更に高めるとともに、毎日の清掃活動を通して校舎の美化に努めたい。
			校内の施設、設備の点検・整備を行い、有効に利用できるようにしたか。	点検・整備に努めたが、場所によっては十分でない箇所もあったので今後の課題としたい。		○		できる限りの取り組みはしたが、不足があった部分については来年度への引き継ぎとしたい。
	図書視聴覚	生徒の教養に資する資料を提供するとともに、生徒・教職員の学習・教育活動を積極的に支援する図書館運営を行う。	広報活動や読書旬間等の行事、生徒会図書委員会の活動の活性化を通じて、読書活動の充実を図ることができたか。	広報活動・読書旬間・文化祭時の古本市は例年通り実施した。読書旬間中に図書委員会役員によるカウンター当番を3年ぶりに行うなど、委員会としての活動も徐々にコロナ前の状態に戻りつつある。図書委員交流会は本校が事務局校として企画・運営をし、信濃毎日新聞社にて交流を深めることができた。しかし、全体を通じて生徒の自発的な活動を促すことが困難であり今後の課題である。		○		今年度から生徒委員会の広報誌と司書作成の新着本情報を1枚にまとめ、より身近で分かりやすい情報提供に努めた。生徒委員会の活性化は引き続きの課題。
			日常の学習や進路学習において、教科や係と連携を深め、資料の提供ができたか。	引き続き 探究・進路関連図書を優先的に購入している。生徒・教科からの購入希望リクエストにも積極的に対応できた。本校に関連した新聞記事を積極的に掲示するように心がけた。今年度は1年生へのオリエンテーションを、従来通り授業時間の1部をいただいて、時間をかけて実施することができた。その結果、1年生の利用が促進された。		○		3学年の講座授業で活用いただいた。次年度も新入生へのオリエンテーションを丁寧に行い、図書館利用の促進を図りたい。進路・小論文指導のための図書相談については、今後も早めの利用を呼びかけたい。
		芸術鑑賞の計画・運営等の視聴覚教育を推進し、高視研との連携を図りながら、生徒と教職員の教育活動に役立てる。	係が芸術鑑賞連絡会や高視研との連携を図りながら事業を推進し、生徒の教育活動に反映・活用できたか。	新型コロナウイルスの拡大防止策等、様々な懸念はあったが、先生方をはじめ全校生徒の協力により、今年度も芸術鑑賞事業を無事に開催することができた。		○		予算状況に応じて改善を進め、机や椅子及び電子黒板や視聴覚機器についても整備を進める。
	保健	自らの健康について関心を持ち、生涯を通じて自発的に健康な生活を送ることができる能力を身につける。	定期健康診断や健康相談活動等を通じ、自らの健康課題を把握し改善することができるよう保健管理・保健指導を行えたか。	定期健康診断や健康相談活動等を通じ、自らの健康課題を把握し改善することができるよう保健管理・保健指導を行った。		○		学級担任の協力を仰ぎながら、きめ細かい指導を行えるよう努力する。生活習慣・食事・睡眠など、今から意識して行動できる成人になれるよう組織的な対応を促す。
			学校において予防すべき感染症について、最新の情報収集により感染拡大防止策の徹底がなされたか。	学校において予防すべき感染症(特に新型コロナウイルス感染症)について、各部署と連携・協力しながら、感染拡大防止策の徹底に努めた。		○		引き続き家庭や学級での健康観察をお願いし、各自の感染予防の意識を高めていきたい。
	探究学習	生徒が自ら課題を発見し、解決していく力を養う。	探究学習係として、情報収集に努め、効果的な学習活動を実施できたか。	情報の収集・精選を行い、関係各所との情報の共有につとめた。一部生徒は留学プログラムに積極的に応募し、代表として選出された。	○			研究応募や参加型の企画を精選・周知することに力を入れ、生徒の探究学習活動が多様化することにつとめたい。
			探究的学習を通じ、生徒に学校外の社会についての理解を深めさせ、社会参画するの姿勢について考えさせる事ができたか。	各学年ごとに、生徒自身の進路と社会とのつながりを意識させながら学習を進めることが出来た。1学年では、大学教授を外部講師として招き、生態系というテーマに触れながら探究的なスキルを獲得した。2学年では生徒各自がそれぞれに研究テーマを設定し、発表までつなげた。一部生徒は地域のNPO法人に出かけてフィールドワークを行うなど、意欲的な取り組みを見せた。		○		問い立て、客観的なデータの活用、フィールドワークの実践等探究学習に必要となる活動について、担当者や生徒各人が継続的に実施していくことが出来るシステムの構築していきたい。
	学習指導	生徒の学習状況や指導上の問題点を把握し、各学年や関係部署と協議しながら学力向上のための研究・実践を行う。	授業アンケート等を通して、生徒の意見・要望を聞き取り、教科指導の向上・充実につなげることができたか。	アンケート実施方法をGoogle Formsに統一し、アンケート結果を教科担当者ごと電子ファイルにまとめて通知する方法に変更した。		○		アンケート入力する時間をまとめて確保するなど、アンケート回収率向上に向けた工夫が必要となる。
生徒の学習実態を把握するとともに、家庭学習など学習習慣の定着を図るべく適切な方策が講じられたか。			1・2学年は、学びの基礎診断(スタディサポート)を4月と9月に実施した。3学年は、各模擬試験等を通じて各生徒の実態把握に努めている。授業アンケートの結果によると主要教科で予習復習をしない生徒が1学期より2学期が多くなっている。また休日の学習室利用者も減る傾向にある。		○		休日学習室開放について、時期や実施回数を検討する。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育課程	教育課程	<p>施行している新教育課程について本校の編成内容が適切であるか検証し、より学習効果が高まる教育課程を研究する。</p>	<p>新教育課程下での学習効果と課題の検討を行い、必要に応じて見直しを行うことができたか。</p>	<p>大学入試の動向、特に公共や情報Ⅰの取り扱いを研究し、新教育課程の内容について検討し、見直すことができた。</p>		○		<p>大学入試における「情報Ⅰ」の取り扱いに注視しながら、今後「情報Ⅱ」の設置についても検討していく。また、数年未開講になっている科目については削除を検討する。</p>
			<p>主体的・対話的で深い学びを踏まえて、学校全体及び各教科で授業内容の研究・検討とそれに伴う観点別の学習評価の検証ができたか。</p>	<p>主体的・対話的で深い学びについて、各教科において授業公開や研究授業の場で研修をしている。観点別評価について各教科で理解を深めると共に評価表の作成や見直しを行った。</p>	○		<p>観点別評価について、次年度は3年次の科目でも実施する。各科目で評価方法について都度再確認、再検討できる態勢を整える。</p>	
	1学年	<p>基本的な生活習慣を土台に、学習、班、生徒会それぞれの活動に誠実に取り組み、自ら考え、行動する力をつけ、確かな学力の向上と目標とする進路実現の展望を開く。</p>	<p>人との関わりや学習環境を整えるための毎日のあいさつや身だしなみ、公共のマナーや身の回りの整理整頓、掃除に丁寧に取り組むことができたか。</p>	<p>全体としてあいさつや清掃といった毎日の活動は比較的よくできている。スマートフォンの扱いについては、ルールを守り、学習に集中できる環境を自ら作るよう、適時意識させる声掛けが必要と思われる。</p>	○			<p>毎日のあいさつ、掃除、他者への配慮といった基本的な部分をより徹底させ、気持ちのよい、快適な学校生活につなげたい。</p>
			<p>目標設定や計画、振り返り、また、スケジュール、持ち物や提出物の確認など自己管理能力を育成するために、「スコラ手帳」を有効に活用することができたか。</p>	<p>書き込みが習慣化し、計画、振り返りのサイクルを自身で定着させている生徒がいる一方、年度当初に比べ、活用しきれていない生徒が増えている。長、中、短期の見通しを持ち、記録する、時間を意識する、振り返る、そうした習慣をつけ、PDCAサイクルを回し、目標実現に向かわせたい。</p>		○		<p>SHRの時間に手帳を開き、前日の振り返り、その日の予定、また連絡事項の記録、持ち物、提出物の確認をさせることで、一定の活用を進めたい。</p>
			<p>教科の学習、「総合的な探究の時間」およびHR活動等において、タブレット端末を有効に利用し、情報リテラシーを高めることができたか。</p>	<p>インターネットリテラシーのテストを受験し、利用の仕方について意識をすることができた。探究学習を中心に各教科活動の中でタブレットを活用し学びを深めることができた。使用上の課題として、必要な時に手元がない、充電切れで使えない、といったことがあげられる。</p>	○			<p>探究の時間での活用はこれまで通りとしたいが、タブレットを使うことでの有効となる部分の確認を進めたい。資料や課題の配信も紙とのバランスを工夫したい。</p>
			<p>生徒が自主的に目標を持って学び、意欲的に進路実現を目指すようになるために、日々の教育活動の中でどのようにICT機器を活用したか。</p>	<p>1年次から日常的・継続的に自分のタブレット端末を使用できているため、それを積極的に利用し、通常の授業や「探究学習」などの調べ学習に取り組んでいる。種々のアンケート、オンラインでの講座や講習においてもICT機器を効率的かつ効果的に活用している。3年次にも同じように指導していきたい。</p>		○		<p>3年次は学習、課外活動ともにたいへん忙しくなるので、学習面のほか自分のスケジュール管理などにおいてもICT機器を有効活用できるよう指導していきたい。</p>
	2学年	<p>社会の一員としての規範意識を持ち、長野吉田高校の生徒としての誇りとともに、謙虚に学ぶ姿勢を持てるよう指導する。自主自律の精神と基本的な生活習慣の土台の上に立って、学習習慣の確立、進路目標に向けての展望を開けるようにする。</p>	<p>本校で生活するひとりの生徒として、あいさつや身だしなみ、公共のマナーや身の回りの整理整頓に気を配り、他者の立場や気持ちに立って物事を考え行動できるように導くことができたか。</p>	<p>あいさつや身だしなみ、清掃活動などについてはよくやっており、快適な学習空間が作られている。1年次後半から学校を休みがちな生徒が増え始めたが、2年次前半において、そうした傾向を持って進級した生徒の中で、学校を続けることができなかった者が複数名いた。</p>		○		<p>3年生として、最上級生となる時を機ととらえ、指導を充実させていきたい。人生の1ページとして、思い出多き充実した高校生活だったと振り返られるような1年間にさせたい。</p>
			<p>生徒会活動やクラブ活動をとおしてひとり一人の責任感や協働力を養い、校内外の様々な活動に対し、積極的に活動に関わろうとする姿勢を育てられたか。</p>	<p>2年次4月にクラス替えがあったが、7月初旬の文化祭(暁峰祭)や8月のクラスマッチなどの行事を経るなかで、クラスの一員としての自覚が促され、仲間と協力しながらひとつの目標に向かって協力することが自然になった。また、準備を含め10月の修学旅行は、生徒たちの積極的な取り組みと好天のおかげで有意義な学校行事にすることができた。</p>		○		<p>学校生活のなかで最高学年になるため、後輩たちの見本になるような学年(集団)を構成する、生徒の一人としての自覚と責任感を持たせたい。</p>
			<p>探究学習や日々の進路指導をとおして、幅広い視野で自らかの可能性に積極的にチャレンジさせ、大学進学から将来の職業選択に向けたアウトラインを描けるように指導できたか。</p>	<p>『吉田一受けたい授業』と銘打ち、生徒ひとり一人が自ら設定した問いに対して、調べ学習を行い、スライドを作成してプレゼンテーションを行った。12月初旬には、5人ほどのグループごとに分かれ、1年生(5人程度)に対して、5分～10分程度の発表とそれに対するディスカッションを行った。生徒たちは非常に積極的な取り組み、なかでも優秀な発表を行った5名は翌週1年生・2年生の全員に向けて発表(全体発表会)を行った。初めての取り組みだったが、今後の『探究学習』のモデルを作ることが出来たと考える。</p>	○			<p>探究活動が2年次までであり、発表等の活用は減少するが、2年次の『探究』で行った個人研究の成果を、推薦入試の受験対策や受験勉強のそのもののモチベーション維持などにつなげさせたい。</p>

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策	
					A	B	C		
教育活動	3学年	責任ある社会の一員としてお互いを思いやり尊重できる事。そして生徒一人一人が自分の目標を持ち進路実現に向けたゆめめ努力ができるように指導する。	「気持ちのよいコミュニケーション」「気持ちのよい学習環境づくり」に向けて、挨拶の徹底、スマホに依存しない生活、友人への気遣い、提出物等の時間管理など、基本的な事項を守りながら誠実に成長ができるよう指導できたか。	欠席・遅刻については、芳しくない生徒が散見されたが、概ねは「気持ちのよいコミュニケーション」「気持ちのよい学習環境づくり」の趣旨に沿って、挨拶を含め基本的な生活習慣を送ることができた。特編授業では、出席率が高く、欠席時の連絡もできていたと、多くの先生方から評価された。	○			脱コロナで、声を出す習慣が戻ってきている。指導を地道に継続することで、生活習慣は改善されていくと思われる。	
			クラスを大切に学年という集団の一員である自覚を高め、長野吉田高校の生徒としての自覚を持ちお互いを励まし進路実現に向けて切磋琢磨することができたか。	生徒会行事、進路実現に向けて、お互いに励まし合いながら切磋琢磨している姿が見られた。特に共通テストに向けての期間は、集団として目標に向けて集中して取り組むことができ、結果も良好であった。	○			多くの生徒は班活動や生徒会行事において最高学年としての自覚を持って行動することができており、助言と見守りで向上していくと思われる。	
			失敗を恐れず挑戦する気持ちを大切にすること。そしてこの1年が人生の中でも忘れることが出来ない良い年になるように導くことができたか。	班活動、生徒会行事を中心に、創意工夫をし団結して物事に取り組む姿が見られた。学習でも、それが継続され、多くの生徒が目標に向け高い意識で活動していた。	○			各自の目標達成が実現できるように生徒を支える指導を継続する事が大切。	
学校運営	教務	生徒が意欲的に学習、クラブ・生徒会活動に取り組むことができるようスムーズな学校運営を行う。	年間行事予定に定められた諸行事を、学年・教科・係・委員会が連携を密にして取り組めるように、立案・計画・運営ができたか。また感染症対策の緩和を考慮し適切な計画を作成できたか。	過去の資料や実践を丁寧に振り返りつつ、5月以降は諸行事の対応をほぼコロナ禍以前の形に戻した。また反省職員会を年間予定に位置づけ、年間活動を振り返り見直す仕組みを取り入れた。急な学級閉鎖が生じた際にも、職員間の協力により、オンライン授業へとスムーズな切り替えが実施でき、状況に応じて対面授業の中継も実施した。		○		課題の洗い出しや新たな取り組みの検討について、より具体的な提案が、各分掌等から上がってくるように仕向けたい。反省職員会の位置づけを有効活用する。オンラインの手法は学級閉鎖時の対応だけでなく、場面に応じた活用を継続する。	
			情報機器と校内ネットワークの管理・運営を進めるとともに、生徒および教職員のICT活用を積極的に支援する。	情報機器および校内ネットワークの円滑な維持管理ができたか。授業・学校行事へのICT活用だけでなく、会議資料の電子化など職員間でのICT活用を進めることができたか。また統合型校務支援システム(C4th)の円滑な運用ができたか。	職員一人一台タブレット端末を確保し、ICT活用の推進体制を強化することができた。また職員会議および教務係会の資料を電子化し、1月から欠席・遅刻連絡でのGoogle Forms試験運用をはじめ、業務の効率化を図った。校務支援システムは十分定着し、出欠管理・成績管理・調査書および指導要録作成の体制は確立された。今後はシステム運用が可能な者を増やしていく必要がある。	○			校内施設（会議室等）予約や連絡・情報共有を効率化するため、校務支援システムやMicrosoft Teamsの活用拡大ができないか検討する。校務支援システムへの情報入力について、漏れ等を防ぐ呼びかけは地道に継続する。
			広報活動に力を入れ、体験入学の充実を図る。	学校案内パンフレットならびに公式ホームページの工夫・充実をはかり、本校を志願する中学生が本校についてよりよく理解できるような情報提供ができたか。	当初の計画通り学校案内パンフレットは作成でき、必要な費用等についても新たに詳細に記載した。体験入学は各所の協力により、無事実施でき、多くの中学生とその保護者に参加してもらうことができた。終日（午前・午後の二部制）にわたる日程については今後検討を要する。		○		体験入学については、実施時期7月を継続する。また午前中に全日程が終了するよう日程設定を試みる。体験入学に間に合うようパンフレット作製は早めに行う。
			保護者と教職員の連携を図り、学校の教育活動を支援する。	P T A諸活動が、保護者が学校への意見や要望を出しやすい機会となりえたか。生徒の学習活動やクラブ活動などに関する教育条件整備を支援することができたか。	5月のP T A総会は引き続きオンライン実施となったが概ね好評であった。9月の各学年P T A教育懇談会は各学年で講演会が実施され、保護者と活発な意見交換がなされた。P T A会計やクラブ振興会会計などの予算執行により、班活動の旅費の支援ができた。環境整備はP T Aの保護者、生徒、教職員、総勢150名余りが参加して花壇の設置できた。		○		引き続き感染に対応する各種行事の開催となると考えられるが、その時期に最善の方法で各種行事が開催されるようにしていきたい。
「開かれた学校づくり」推進	「開かれた学校づくり」を研究・推進し、学校をより活性化させる。	授業公開・教育実習等の機会を捉え、魅力のある授業を行うための校内研究を充実させ、教員の資質向上を図ることができたか。	当初予定したすべての授業公開を無事実施でき、非常に多くの中学生やその保護者にご参加いただいた（5月500名・6月290名・10月150名）。また、参加申込みにGoogleFormを活用し、中学校・高校相互の負担軽減策も講じた。人数が多い分、受付での待ち時間が長くなってしまった。		○		申込でのGoogle Forms活用は好評のため継続する。また受付方法を中学生側と高校側の両者負担にならない方法を検討したい。		
		学校自己評価表作成と中間評価及び総括、学校評議員会等の意見などの反映に加え、新しい「学びの指標」・「生徒育成方針」フィードバックシステムの活用も進め、よりよい学校づくりに資することができたか。	各種アンケートにはクラウドサービスを積極的に活用し、効率化を進めている。また「新しい学びの指標」をはじめ、各アンケート結果は職員間でフィードバックでききるよう努めており、スクールミッションの策定や三つの方針の見直しにつなげることができた。		○		アンケート集約ではクラウドサービスの活用を継続する。アンケート結果や学校評議員会での意見は、職員会議等を利用しつつ職員間での共有を図り、学校改善につなげたい。回収率をあげられるようこまめな呼びかけを行う。		